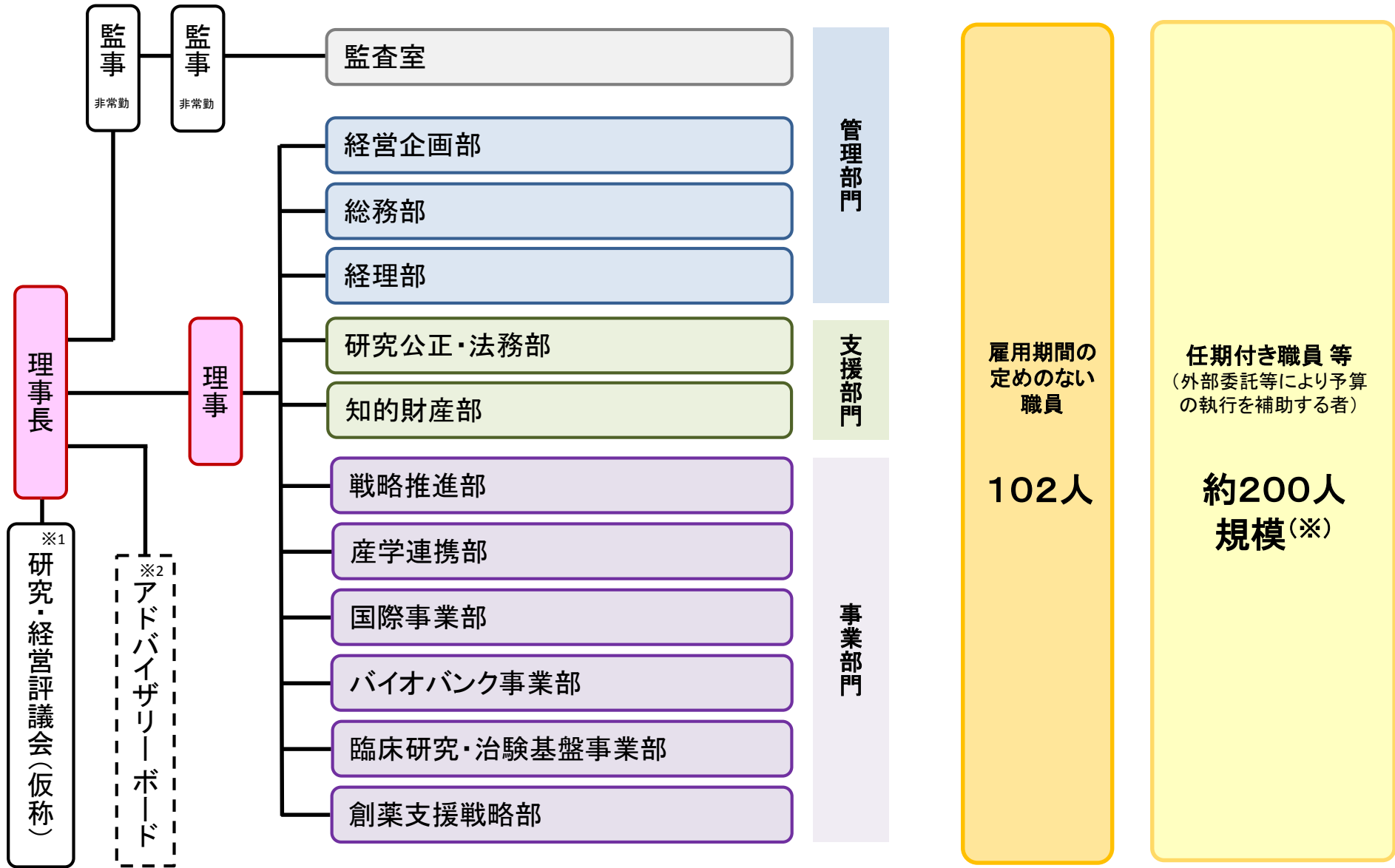

日本医療研究開発機構の運営方針について

国立研究開発法人日本医療研究開発機構

理事長 末松 誠

日本医療研究開発機構組織体制について



※¹ 研究・経営評議会 …… 研究の実施を含む機構の運営に関する重要事項に関し、理事長に対し助言等を行う組織

※² アドバイザリーボード …… 医療現場、産業界、研究者、患者等からの様々なニーズの把握のため理事長の下に置かれる会議

※ 事業の予算規模等に応じて、変動し得る。

7プロジェクトを包含する戦略推進部が他の5事業部との「縦横連携」によって
Medical R&Dの全体最適化を目指す

戦略推進部



新独法(日本医療研究開発機構)による革新的医療開発のイメージ

研究開発ファンディングシステムの一元化

先見性あるPD・POによるプログラムの方向性決定

個々のプロジェクトで“LIFE”の3つの意味(生命・生活・人生)を意識した運営

公募による
プロジェクト申請

シニア+若手研究者による
ピア・レビューと評価の透明化

病態の基礎的解明

早期臨床治験

治療標的の同定

非臨床試験によるPOC取得

候補薬剤の探索・適正化

「死の谷」の
克服

創薬支援戦略部による臨床応用への
的確なナビゲーション

企業連携
後期臨床治験
への導出

進捗を厳正にピア・レビューし、良好なプロジェクトを更にファンディング

日本医療研究開発機構のミッションと課題: まとめ

- ✓ **一貫した研究支援体制**

3省庁の研究開発支援の一本化は資金の重複排除による有効活用の実現をもたらす。その上で重要なことは「基礎からTranslational」「Translationalから臨床研究・実用化」というプロセスの一貫支援体制の確保である。また「実用化研究から創出される新たな基礎研究の開拓」も極めて重要である。新機構は「シーズからのアカデミア創薬」「ニーズからの医療機器開発」を推進するべく、基礎・臨床一体型医学医療を実現できるAROのネットワーク強化を図る。
- ✓ **3つの“LIFE”(生命・生活・人生)を包含した研究テーマの選定と育成**

障害調整生命年(DALYs)への影響の大きい精神神経疾患の臨床研究を推進する体制を整備することは重要である。企業の投資が十分とは言えない領域、患者数の少ない希少疾患・難病、診断すら難しいUndiagnosed patientなどに光を当て、地道な研究を支えることによって、患者さんに寄り添い、支える医療を提供することは新法人の重要なミッションとして位置付けたい。研究テーマの選定と育成 にあたっては、経験豊富なシニアの研究者のみならず、先端的動向に通じた若手研究者も積極的にピア・レビューや課題管理に参加するしくみを構築する。
- ✓ **超高齢社会における予防医療研究のモデルを発信する**

超高齢社会における予防医学の展開には先進医療のR&Dのみならず、「医療周辺産業の活性化」が不可欠であり、新機構はこれに協力する。医育機関と地域の病院・診療所との連携のために、国の次世代医療ICT基盤協議会等が進める医療・介護・健康分野の包括的なICT化と協力して、創薬・医療機器等のアンメットニーズの探索を推進し、「超高齢社会の予防医学の日本モデル」を発信することを目指す。